

大山街道ウォーク 赤坂御門から大山阿夫利神社下社まで (1)

第1回 赤坂御門～三軒茶屋駅

街道距離 10.7 km

★ 実施日 H 27年 10月 21日 (水)

★ スタート場所・時刻

地下鉄永田町駅5番出口(地上) AM 10時

参加者 竹島 久雄、折本 文夫、杉田 勝行、山岸 雅明、中田 信義、前北 勝司、宇山 治男、
野田 宏、八木 関三、相原 教男、三浦 繁雄、伊藤 泰弘、中島 征雄 合計 13名

コース

永田町5番出口10:00～赤坂御門～弁慶橋～豊川稲荷10:27～牛鳴坂～高橋是清翁記念公園10:50
～11:06梅窓院～善光寺～12:00金王八幡宮(昼食)12:25～御嶽神社・宮益坂～道玄坂～上目黒大
坂～上目黒氷川神社～目黒天空庭園～目黒川大橋～池尻稲荷神社～14:18東急田園都市線三軒茶屋
駅

今回歩く大山街道は江戸時代に整備された脇往還の一つで赤坂御門を出発して青山、三軒茶屋より瀬田を経て、多摩川を二子で渡り、溝口、長津田、厚木、愛甲、伊勢原、板戸、善波、千村、神山、松田惣領、関本、矢倉沢関所から足柄峠を越して駿河方面へ達する矢倉沢往還の途中の伊勢原から大山へ向かう参詣の道である。江戸時代半ば以後、江戸庶民の大山詣りの道として盛んに利用され。矢倉沢往還は大山街道・大山道と呼ばれるようになった。他の大山へ向かう道を総称して大山道と呼んでいた。

集合場所からやく100m赤坂見附交差点へ下っていったところに赤坂御門(赤坂見附)の石垣がある。

【赤坂御門跡】江戸城外堀にあった36の郭門の一つ。寛永13年(1636)、筑前福岡藩主黒田忠之により枡形石垣が築かれ、寛永16年(1639)に御門普請奉行の加藤正道、小川安則によって完成された。常時3人の見張り番がいて「赤坂見附」と呼ばれ、大山街道の出発点である。

10時07分、赤坂御門跡を出、大山街道ウォークの第一歩を踏み出した。下って弁慶橋・弁慶堀を右に見て赤坂見附交差点外堀通りを渡り青山通り(国道246号線)に出、登り坂を進むと豊川稲荷がある。

【弁慶濠・弁慶橋】この堀は江戸開府の頃、この濠の工事を請け負った弁慶小佐右衛門の名からつけられた。橋は明治22年に新たに架けられた時に濠の名前に因み弁慶橋と命名されたという説がある。

【豊川稲荷東京別院】愛知県にある豊川稲荷は正式名を「宗教法人 豊川閻魔寺(とよかわかく みょうごんじ)」と称し山号を圓福山(えんぶくさん)とする曹洞宗の寺院。本尊は千手観音。当寺の境内に祀られる鎮守の稲荷「吒枳尼真天(だきにしんてん)」が有名なため、一般的には「豊川稲荷」の名で知られている。「稲荷」は「狐を祀った神社」と思われるが、豊川稲荷は神社では

ないものの、商売繁盛の神として知られている。

東京別院は江戸時代、江戸町奉行として有名であった大岡越前守忠相の子、忠宣が赤坂の屋敷内に豊川稲荷を祀ったのが始まり。明治20年に赤坂一ツ木の大岡邸から現在地に移転遷座し、愛知県豊川閣の直轄の別院となった。

豊川稲荷から少し戻り歩道橋を渡って渋谷方面に50m程行くと、左に入る坂道がある。大山街道旧道で「牛鳴（啼）坂」という。

【牛鳴（啼）坂】昔は急で滑り易い坂であった。荷を引く牛が疲れて鳴くほどの急な坂というところから付けられた。さいかち坂とも呼ばれた。

牛鳴坂を右に半円を描くように曲がった左に山脇学園、右に弾正坂がある。元の青山通りに出た左に薬研坂があり、そこから200m弱行くと木々が生い茂った「高橋是清翁記念公園」がある。

【高橋是清翁記念公園】この公園は大正から昭和初めにかけて首相、蔵相などをつとめた政治家「高橋是清」翁（1854～1936年）の邸宅があったところ。昭和11年(1936)2月26日、226事件で翁は犠牲となりこの地で83歳で死去。翁の没後、昭和13年10月に高橋是清翁記念事業会がこの地を当時の東京市に寄附し、昭和16年に公園として開園した。

高橋是清翁記念公園から青山通りを約1km、途中右に明治神宮外苑のイチョウ並木の通りを見て進んだ外苑前交差点の手前左、両側が竹で美しい細い路地の奥に「梅窓院」がある。

【梅窓院】「青山」の地名は江戸時代の初め、徳川家家臣、美濃郡上八幡の青山氏がこのいったいを拝領したことによるとも云われ、領主青山幸成の法号に因み「梅窓院」の名がついた。青山の観音様で知られる寺で、境内には12代にわたる当主の墓石の他、明治時代の煙草会社岩谷商会の創始者、岩谷松平の特大の墓石が建っている。

梅窓院の小路を出た所の外苑前交差点で北（右）側に渡ると大山道の新しい道標があり、400m程進んだところに善光寺がある。

【善光寺】徳川家康が慶長16年(1611)に谷中に堂宇を建立し、長野善光寺の一光三尊阿弥陀如来の分身を祀ったのが始まり。元禄16年(1703)火災に遭い、この地に移転。境内に高野長英の碑がある。

表参道交差点で左側へ渡り、青山学院大学の先を大山街道から離れて左折。道なりに進んで、六本木通りを渡って150m、右側2本目の道を入った先に金王八幡宮がある。境内のベンチで昼食と取る。

【金王八幡宮】祭神は応神天皇（品陀和気命）。桓武天皇のひ孫の高望王の4代後の秩父武基の子武綱は、源義家から後三年の役での功により河崎姓と武蔵谷盛庄を賜り、武綱の子・重家は禁裏の賊を退治したことにより堀河天皇から渋谷の姓を賜り、当八幡宮を中心に館を構え居城とした。これが渋谷の発祥とされ、境内に渋谷城砦の石が保存されている。当八幡宮は渋谷八幡宮と称していたが、渋谷金丸の名声に依り、金王八幡宮と称されるようになった。

渋谷金丸常光は、渋谷平重家の子で、永治元年(1141)8月15日に生まれた。重家には子がなく夫婦で当八幡宮に祈願を続けていると、金剛夜叉明王が妻の胎内に宿る霊夢を見て立派な男子が授かった。そこで、その子に明王の上下二文字を戴き「金丸」と名付けた。

金王丸17歳の時、源義朝の従って保元の乱(1156)で大功を立て、その名を轟かせた。続く平治の乱(1159)では義朝は敗れ、東国に下る途中立ち寄った尾張国野間の長田忠宗の謀反により敢え無い最期を遂げた。金王丸は、京に上り常盤御前にこのことを報じたのち渋谷で剃髪し、土佐坊昌俊と称して義朝の御霊を弔った。

金王丸は、義朝の子・頼朝との交わりも深かった。壇ノ浦の戦いの後、頼朝は義経に謀反の疑いをかけ、これを討つよう昌俊(金王丸)に命じた。昌俊は断ることも出来ず、文治元年(1185)10月、百騎ばかりを率いて京に上り、同10月23日夜義経の館に討ち入った。昌俊は、初めから義経を討つ考えはなく、捕えられて勇将らしい最期を遂げた。

金王丸の名は平治物語、近松戯曲などに、また土佐坊昌俊としては源平盛衰記、吾妻鏡、平家物語などにみえ、その武勇のほどが偲ばれる。

そして金王丸の名声により、当八幡宮を金王八幡宮と称するようになった。

金王八幡宮から戻り六本木通りを渡った角から斜め左に細い道を行くと青山通りにぶつかる。信号を渡り左折する。直ぐに国道246号から分かれて始まる坂が宮益坂で、矢倉沢往還の赤坂御門から最初の立場があったところでもとは富士見坂と呼ばれていたが、坂の途中右側にある御嶽神社のご利益で益々栄える町へということで宮益坂と名が変えられたという。

渋谷駅の前から道玄坂の登りが始まり玉川通り(国道246号)に合流する。道玄坂上信号の左側に「道玄坂の碑」がある。(12;58)

【道玄坂の碑】渋谷氏が北条氏綱に滅ぼされたとき(1525年)、その一族の大和田太郎道玄がこの坂の傍らに庵を造って住んだ。それでこの坂を道玄坂といわれている。(以下 略)

玉川通りを右に渡り450m程、神泉町交差点の先2本目斜め右に入る道が旧街道で大坂といわれる急坂である。

【上目黒大坂】大山街道で一番の急坂。落した団子が坂下まで転がるほどの急な坂だったことから団子坂ともいわれた。坂上の立場からは西の大山はじめ丹沢連山が良く見え、明治中期の「東京名所図会」にその様子が描かれている。

大坂を下りると山手通りに突き当たる。旧道は突っ切るが、渡れないため左折し玉川通りのガード手前の信号を右折し玉川通りに沿った道を上り玉川通りに出て右に進む。玉川通りを5、60m行った右側階段の奥に「上目黒氷川神社」がある。(石段下左側に大山道の道標がある)

【上目黒氷川神社】天正年間、当地の旧家加藤氏が勧請したといわれ、石段下の三叉路に村人が天保13年(1842)に立てた大山道道標が残っている。正面には「大山道 せたがや通、玉川通」。右側面には「ひろう、めぐろ、池がみ、品川みち」。左側面には「青山、あさぶみち」と刻んである。

氷川神社から200mで玉川通りを左側に渡ると首都高の大橋ジャンクションの屋上に造られた「目黒天空庭園への入口・エレベーター」がある。庭園の東口広場の展望台デッキから富士山が見えるとのことであったが、今日は霞んで富士山は見えなかった。天空庭園には草木が沢山植えられ、秋の草花が可愛く咲いていた。休憩を取る。

天空庭園の直ぐ先の大橋で目黒川を渡る。

【目黒川大橋】新編武蔵風土記稿の上目黒村の項に『大橋目黒川ニ架ス、土橋ニテ長サ七間幅九尺、此橋ノ傍ニ水車アリ、文化年中、村民勘右衛門ト云ウ者願上テツクレリ』とある。今、上流部は暗渠化した、下流の岸边は桜の季節美しい。

大橋から約150m出光GSの先で旧街道は左斜めに入る。旧道を道なりに約350m行くと右側に池尻稲荷神社がある。

【池尻稲荷神社】この神社は江戸時代の初めに創建され、子育て、火伏せのお稲荷様として、旧池尻、池沢村の人々に信仰されてきた。境内には「涸れずの井戸」があり、大山道を行き交う旅人の喉を潤したという。

池尻稲荷神社から道なりに進み300m弱で玉川通りに出、左折。約800mで三軒茶屋に着く。
(14:18) 今回はここまで。次回の集合場所を確認して解散。

本日の歩行距離：約15km。移動時間：約3時間。停止時間：1時間15分。

〈参考文献〉

川崎市大山街道ふるさと館編「訪ねて楽しい大山街道」、川崎国道事務所「大山街道見どころマップ」、寺社パンフレット、

第1回 完